

ESAO 参加印象記

東京大学医学部附属病院心臓外科

秋山 大地

Daichi AKIYAMA



第45回ヨーロッパ人工臓器学会 (European Society for Artificial Organs: ESAO) 大会がスペイン、マドリードの Hospital General Universitario Gregorio Marañón にて開催された。

私は昨年もウィーンの第44回大会に参加させていただいたが、この時期のヨーロッパは非常に過ごしやすい。最大の繁華街である Puerta del sol の熱気は、平日にもかかわらずすさまじく、阪神タイガース優勝時の道頓堀を彷彿とさせた。パエリア (スペイン風にはパエージャ) も非常においしく堪能した。

昨年同様、病院の敷地内の一角で開催され、スクラブ姿のまま発表する resident の姿もみられた。スペインらしく、開会式はプロのフラメンコのパフォーマンスにて聴衆は大いに盛り上がった (ちなみに去年は、初めて HVAD を埋め込まれ心移植に至ったオペラ歌手のパフォーマンスであった)。

ここまで書くと「遊びに行っているか」とお叱りを受けてしまいそうであるが、学会も大いに盛り上がりを見せた。Commercialize されている VAD の成績や合併症に目を向けている者が多い中、未だ rotary blood pump や pneumatic pump といったポンプの駆動機構とは全く異なったメカニズムを持つ VAD の開発に関する発表が多くあり、個人的に興味深く拝聴した。その一つは、フランスの group が研究開発していて、undulating membrane pump という、ドーナツ状の膜状構造物を縦に振動させて揚程を発生させる仕組

みのようであった。素人には全く理解できなかったが、子どもの頃にガンダムのプラモデルやミニ四駆を作った時のようなワクワクを久々に感じた。

その中であって日本からの発表は数多く、300 近くのプレゼンテーションのうち 20 以上を数えた。私も国立循環器病センター時代の研究成果を発表させていただいたが、すさまじくましく立ててくる訛りのきいた英語 (特にイタリア英語) はなんとかならないのかといつも思う。ただ、日本で discussion しているだけでは得られない新しい示唆をいただけることも多い。

残念ながら悪い意味でのスペインらしさも堪能することとなってしまった、同僚が窃盗被害に遭ったのである。しかも犯行現場と推測されるのはおそらく、スペイン最大の美術館であるプラド美術館の、しかも荷物検査の現場であるというから驚きである。いわく、自分のバッグを預けている際に、後ろの人が荷物を落として散逸させてしまい、そちらに気を取られて自分のバッグから目を離したそうである。バッグは受け取った際には何の変化もなかったそうだが、後でみると中にあった財布から札束だけ抜かれていたようだ。

来年度の ESAO はドイツのハノーファーで開催される。個人的には ASAIO よりこちらの雰囲気の方が好みであり、チャンスがあれば参加したいと思う。

本稿の著者には規定された COI はない。

■ 著者連絡先

東京大学医学部附属病院心臓外科
(〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1)
E-mail. initiald6@gmail.com